

# 小学校家庭科の視点からの教員養成の課題

## Problems of Teacher Training From the Viewpoint of Home Economics at Elementary School

森 田 清 美

Kiyomi MORITA

キーワード：家庭・家庭科力・生活科学・達成感

### I. はじめに

小学校家庭科は、平成20年度改定の学習指導要領<sup>1)</sup>で、他教科と同様に中学校家庭科との系統性と連動性がより重視されるようになった。内容構成が小学校と中学校と同一の枠組みとなることから、中学校での内容を見通して、小学校の学習に求められる基礎的・基本的な知識及び技能や、生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が着実にはぐくまれることを示唆している。しかしながら、小学校では家庭科を指導するのは5・6年生の担任か、家庭科専科\*等を担当する場合のみとなる。自分の衣食住の生活が家族（親）に依存した状態が続き、教師自身の生活面での“自立”が実現できていない場合もある。板倉<sup>2)</sup>は自らの現場経験で感じた新米教師の家庭科指導への不安を想定した授業方法を提案し、教員養成に一考を示している。家庭科の内容は、誰でもが連想する衣・食・住の生活領域の他に家族関係、地域社会との関わり、環境、家庭経済、消費生活、保育、高齢者や障がい者の支援・介護などの生活福祉などと多岐にわたる。限られた授業時間の中で、学生達自身の“家庭科力”を習得させ“指導力”を高めるのは難しい。

筆者は、昨年から2年間本学こども発達教育学科で小学校教諭養成課程の教科科目として前期に「家庭」を担当した。また、本学短期大学部総合生活デザイン学科で中学校家庭科教諭（二種）の教科に関する科目を指導している。小学校・中学校・高校の家庭科の出発点である小学校教諭養成にかかわることに大きな興味を持っている。

今年度は子ども発達教育学科のカリキュラムの関係で2年次生・3年次生と別開講となった。2年次生は、教科内容系科目で選択科目にもかかわらず55名の学生が履修をした。家庭科は座学だけではなく、実習を伴う教科である。総合生活デザイン学科の調理実習室や衣生活実習室を使用することは可能であったが、施設と備品は学生数30名を想定している。将来、小学生に家庭科を指導する立場の学生に「調理実習では…、ミシンの取り扱いは…」と授業構成を考え自問自答をした。本研究は、学生が、家庭科という教科をどう捉えているのかを把握し、小学校家庭科の視点からの教員養成の課題を検討することを目的とする。

### II. 方法

#### 1. 調査時期・対象・方法

2014年5月に本学子ども発達教育学科2年次生・3年次生93名を対象に、無記名自記式アンケート調査を行い、協力の得られた91名の回答を得た。（有効回収率97.8%）

#### 2. 調査内容

調査内容は、学校での「家庭科」は好きだったか、教科としての「家庭科」を学んでの感想、小学校「家庭科」での実習で一番記憶に残っている実習、教師になり「家庭科」を教えることへの思い、

「家庭科」と他教科との違いについて5項目について一番近い選択肢を1つ選ぶこととした。

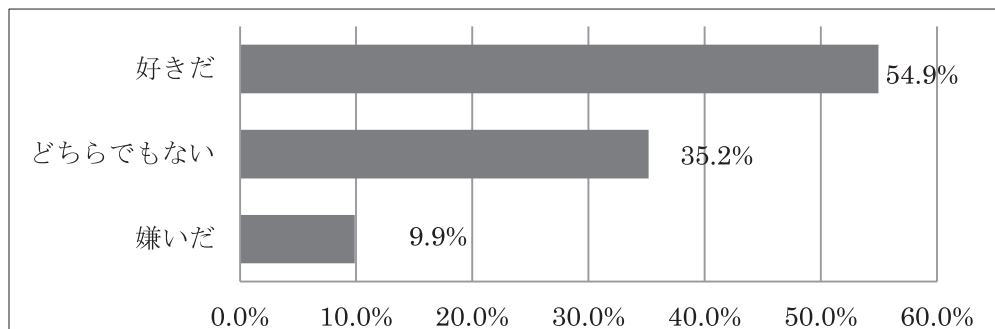
小学校での定着力を確認する問題（家庭生活に関する問題・消費生活に関する問題・住に関する問題・食に関する問題・衣に関する問題）の正答率を通して各分野の定着率を比較した。

### Ⅲ．結果

#### (1) 学校での「家庭科」は好きだったか

学生の「家庭科」が好き54.9%，どちらでもない35.2%，嫌い9.9%であった。

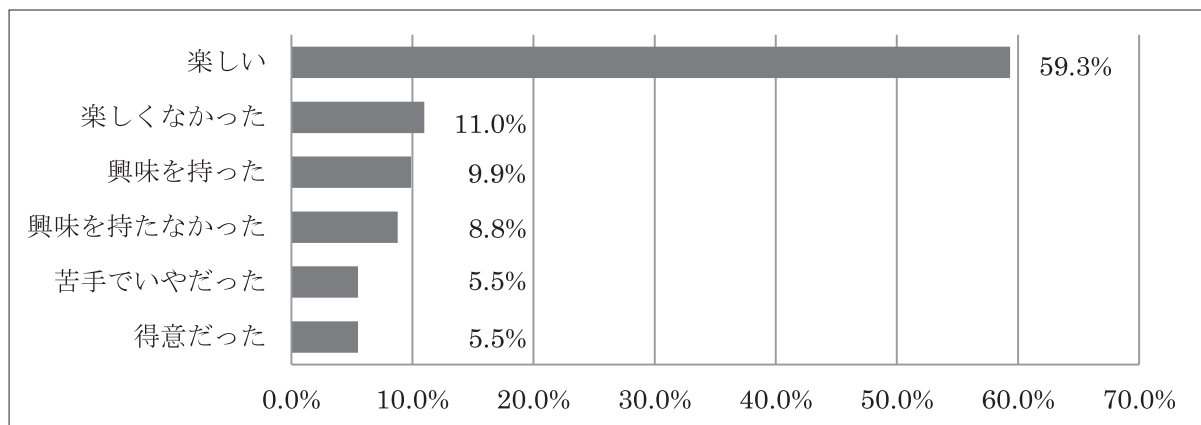
図1 家庭科は好きだったか



#### (2) 教科としての「家庭科」を学んでの感想

家庭科は楽しいと答えた者が59.3%と過半数を超え，楽しくなかった11.0%，興味を持った9.9%，興味を持たなかった8.8%，得意だった・苦手でいやだったと答えた者がそれぞれ5.5%であった。

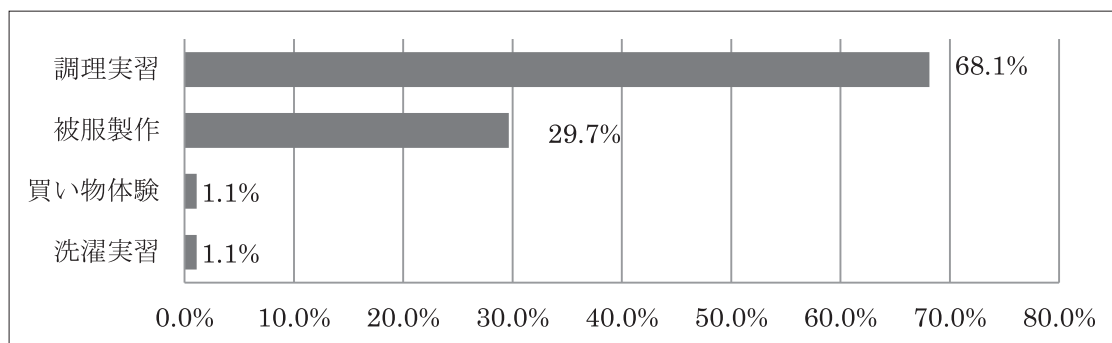
図2 家庭科を学んでの感想は



#### (3) 小学校「家庭科」での実習で一番記憶に残っている実習

小学校「家庭科」での実習で一番残っているものは，調理実習68.1%と一番多く，被服製作は29.1%，買い物体験や洗濯実習はそれぞれ1.1%であった。

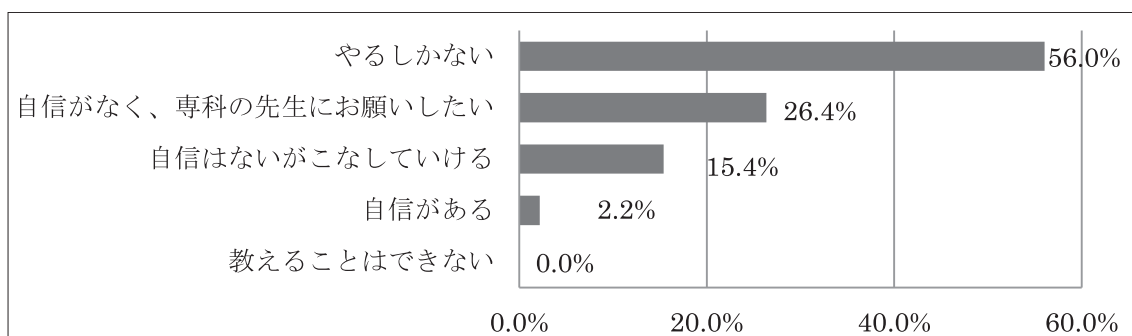
図3 小学校「家庭科」で記憶に残っている実習



(4) 教師になり「家庭科」を教えることへの思い

将来、教師となり「家庭科」を教えることについての思いを聞くと、やるしかない56.0%，自信がなく、専科\*の先生にお願いしたい26.4%，自信はないがこなしていける15.4%，自信がある2.2%，教えることはできない0%であった。

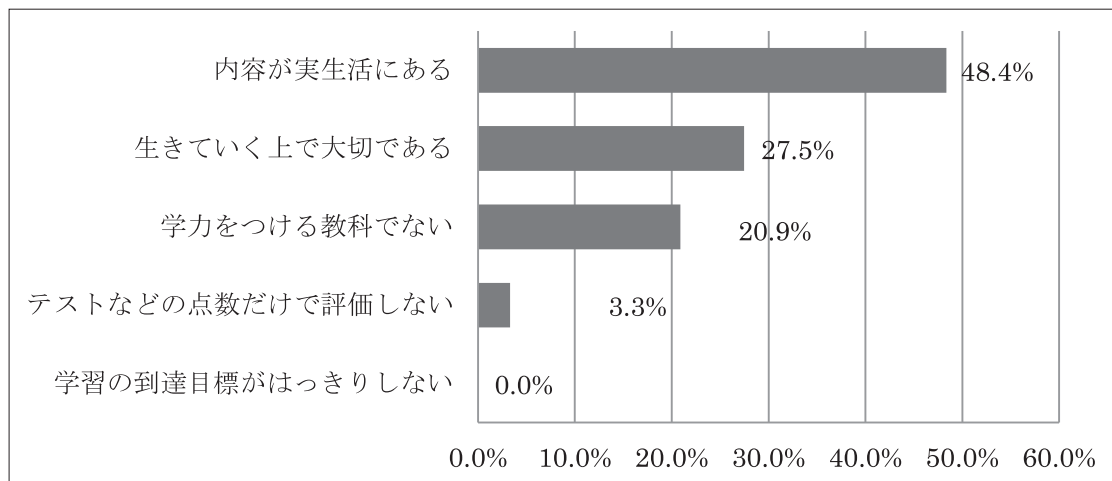
図4 教師になり家庭科を教える事に



(5) 「家庭科」と他教科との違いは何か

「家庭科」と他教科との違いをみると、内容が実生活にある48.4%，生きて上で大切な教科である27.5%，学力をつける教科でない20.9%，テストなどの点数だけで評価しない3.3%，学習到達目標がはっきりしない0%であった。

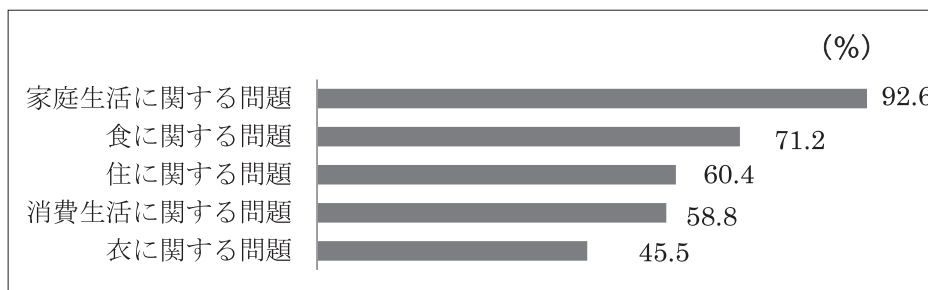
図5 他教科との違いは



#### (6) 小学校での学習の定着率を確認する問題の正答率

小学校家庭科で学んだ学習内容がどれくらい定着しているかを調べると、その正答率は家庭生活に関する問題の正答率 92.6%，食に関する問題の正答率 71.2%，住に関する問題 60.4%，消費生活に関する問題の正答率 58.8%，衣に関する問題の正答率 45.5%である。

図6 小学校での学習の定着を確認する問題の正答率



#### IV. 考察

小学校家庭科は、第5学年と第6学年で指導する教科である。本研究では、小学校教職課程の学生の家庭科について認識を調査し、教員になり家庭科を指導することをどう考えているかを調査した。

小学校・中学校・高校で家庭科の学習が好きだと答えた者は 54.9%であり、嫌いだと答えた者 9.9%より多い。また家庭科を学んでの感想は「楽しい」「興味を持った」「得意だった」と答えた者は 74.7%であった。それに対して「楽しくなかった」「興味を持たなかった」「苦手でいやだった」と答えた者は 25.3%であった。小学校での実習で記憶に残っているのは調理実習 68.1%と多く、次に被服製作実習 29.7%であった。調理実習は班での協働活動であり、被服製作は個々での取組である。大橋<sup>3)</sup>の報告にもあるように、被服製作における縫うことが苦手意識を持たせることに影響したものと考えられる。このことが家庭科を学んでの感想において否定的な感想 28.3%を持つ要因ではないかと考えられる。

将来、教師になり家庭科を教えることをどう考えているかでは、「やるしかない」56.0%であるが、「自信がなく専科\*の先生にお願いしたい」26.4%で、ここに小学校家庭科の視点からの教員養成の課題が認められた。家庭科と他の教科の違いを「内容が実生活にある」48.8%、「生きていく上で大切だ」27.5%と答えている。しかしながら、「学力をつける教科ではない」20.9%と高く、家庭科という教科の特性を理解しておらず、『学力』の捉え方に疑問が残ることが認められた。

小学校での学習の定着率を確認する問題の正答率は、家庭生活 92.6% > 食 71.2% > 住 60.4% > 消費生活 58.8% > 衣 45.5%の順であった。定着率の高かった問題項目は『早寝・早起き・朝ご飯』の標語を答えるものであった。平成 17 年食育基本法が制定され、小学校で学校給食を教材にした食育が広まったことにより『早寝・早起き・朝ご飯』の標語は定着していることが認められた。

小学校学習指導要領<sup>1)</sup>より小学校家庭科の目標は「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。」である。指導内容は、A 家庭生活と家族・B 日常の食事と調理の基礎・C 快適な衣服と住まい・D 身近な消費生活と環境の 4 つよりなる。また、平成 20 年度の改訂で小学校での学びが中学校への学びに連動しており、小学校家庭科の学びが学校教育での家庭科への意欲を左右する。そして、家庭科の指導には、将来の教員となる学生が自分の生活をどう運営しているかが影響する。上村ら<sup>4)</sup>

の調査から見えてくる学生の食の自己管理能力（食を営む力）の低下もその一因と思われ、学生は食の重要性は認めているが実践度が低い。

小学校家庭科の視点からの教員養成の課題の一つ目は、家庭科と他の教科との違いを「学力をつける教科ではない」と答えた者が20.9%とおり、家庭科に対する誤解がある。学力を4教科（国語・算数・理科・社会）に関する知識力としているのではないか。知力の基盤となる家庭科への認識を伝える必要性が示唆された。家庭科は生活を科学的な目で見ると「生活を科学する」教科である。そして、児童が将来、自立・自律した生活を送ることができるように技能と理論を学ぶことをねらいとしている。学習主体の児童が「してもらおう自分」から「する自分」「できる自分」へと実感できる教科であり、教員と児童や児童同士のコミュニケーションを図ることができる教科である。

そして、教師になり家庭科を教えることに、26.4%の学生が「自信がなく専科\*の先生にお願いしたい」としていることに小学校家庭科の視点からの教員養成の二つ目の課題がある。本授業において、小林ら<sup>5)</sup>の学生個々に学習の定着をチェックするという学習指導法を入れた授業展開は、履修学生が55名に1名の教員での指導では難しい。学生にとって、指導者の目線と児童での目線を持って実習授業を経験することで家庭科の教科の特性が理解される。学生が児童の立場になって様々な実践的・体験的な学習をすることは、教員として指導する立場になった際、家庭科を指導する自信となる。森田ら<sup>6)</sup>の調査によると被服実習などの製作は、最後までやり遂げるという達成感になり、学ぶ意欲に繋がる。野崎ら<sup>7)</sup>は、家庭科は「もっとやってみたい」という、実践する態度を育てる教科であり、家庭科は経過を励まし、認め、ほめるのがポイントであるとし、教師自身が楽しく教えるように新任教師の授業の基礎・基本を踏まえた授業例を提示している。

本授業はこれらのことを念頭に置き、表1に示すように授業構成をした。なお表2には、本授業における学習の内容のうちの実践的・体験的な製作や実習を示した。

表1「家庭」授業構成

①⇒⑤の手順で進める	ねらいとしている点
①学習指導要領で指導目標・内容を確認 ②教科書で学習のめあて・学習内容を確認 ③指導する立場でワークシートを作成 ④実践（実習） ⑤振り返りワークシートで学習の定着を確認	・採用試験を踏まえて ・教員になった際のことを踏まえて

表2「家庭」の授業での実践的・体験的な学習内容

学習内容	実践的・体験的な学習
A 家庭生活と家族	・生活時間時計表の作成（自分の生活時間を点検し、家族の生活時間と比較）
B 日常の食事と調理の基礎	・栄養かるた ・計量のしかた ・調理実習（米飯・目玉焼き・みそ汁、カレーライス・サラダ）
C 快適な衣服と住まい	・基礎縫い（手縫い）〈玉結び、玉止め、並み縫い、本返し縫い、半返し縫い、かがり縫い、2つ穴のボタンつけ〉 ・ミシンの取り扱い（針のつけ方、上糸のかけ方、下糸の入れ方、直線縫い、曲線縫い） ・ランチョンマット製作
D 身近な消費生活と環境	・指あみでつくるエコたわし ・エコかるた

将来、指導する立場となる学生が家庭科を楽しむ心を持ち、できた喜びや達成感を知り、「家庭科は生活の力をつける教科だ」と実感してほしいと考えている。家庭科は課題設定をし、授業が展開される中で課題を解決する教科である。そして評価をすることで、家庭科で学んだ知識や技能を生かして、日常生活に活用して、家庭生活をよりよくしようと工夫しようという実践的な態度を育てる。小学校の学びが中学・高校への学びの意欲を育み、生活の自立を促していく。初めて家庭科を教える教師になる学生が自信を持って楽しく教えられるように、今後、さらに本授業の指導のあり方を模索していきたい。

## V. おわりに

本研究において、将来、小学校教諭として家庭科を教える立場となる学生の家庭科への捉え方が、旧態然とした「家庭科は調理や裁縫を教える教科である」としていることがわかった。家庭科で学ぶ「生きる力を育む」ことを学力して捉えていない。家庭科は生活を科学的な目で見ると「生活を科学する教科」と捉えられていないのではないかと感じた。

小学校家庭科の視点からの教員養成を考えると学生自身が生活する力をつけ、生活者として家庭生活を見る視点を持つことが大切である。学生自身の“家庭科力”を習得させ“指導力”を高めるのは難しい。小学校・中学校・高等学校の家庭科の出発点である小学校教諭の力量は、学生の学校教育で受けた家庭科の授業のあり方にも起因している。本授業において、教科内容を理解させるだけでなく、指導者の目線と児童での目線を踏まえた授業を展開し、学生の“家庭科力”の習得を図っていくことを課題としていきたい。

終わりにあたり、アンケートにご協力くださいました皆様に深謝申し上げます。

専科\*の先生：小学第5学年、6学年の家庭科の授業のみを担当する教員

## V. 文献

- 1) 文部科学省 小学校学習指導要領解説「家庭科編」, pp.2-7, 東洋館出版社 東京 (2007)
- 2) 板倉明子:「家庭科教育」に関する授業方法の一考察—小学校・中学校・高校における「家庭科」の授業実践を基にして—, プール学院大学研究紀要第53号 pp.1, pp.235-236 (2012)
- 3) 大橋登史子:家庭科における男子学習者の興味・関心について, 中国短期大学紀要 22, pp.2-11 (1991)
- 4) 上村芳枝, 門那麻貴, 丹羽真理, 森田清美:女子学生の朝食での米飯摂取と食習慣・食趣好・自覚症状との関連性, 比治山大学短期大学部紀要第49号 pp.9-11 (2013)
- 5) 小林陽子, 小谷敦子:小学校家庭科製作実習における学習指導法の検討, 日本家庭科教育学会誌, 53 (1) pp.40-46 (2010)
- 6) 森田清美, 北林佳織:高等学校家庭科学習の学びに関する男子・女子別認識実態, 比治山大学短期大学部紀要第49号 pp.63.66-69 (2013)
- 7) 野崎恵津子, 稲田百合:新任教師のしごと家庭科—授業の基礎基本—, 小学館 pp2-11 (2010)